

## 単元名 3 言葉に立ち止まる 一言葉1 指示する語句と接続する語句

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 指示する語句の使い分けの決まりや効果について理解することができる。

接続する語句の働

きを理解させ、どのような意味関係で前後の内容をつないでいるかを確認することができる。

(3) 日常の言語活動と結び付け、指示する語句（こそあど言葉）と接続する語句について考えようとする。

## 標準的な展開例

10210117\_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「指示する語句」の働きと体系を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容を確認する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「指示する語句」の働きを知ろう。</li> <li>○ 指示する語句について話し合う。</li> </ul> <p>○ 「指示する語句」(p. 77)の表を使い、現場指示の指示する語句について理解する。</p> <p>○ 文脈指示の指示する語句について理解する。</p> <p>2 「接続する語句」の働きと接続の意味関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「接続する語句」の働きや意味関係を理解しよう。</li> <li>○ 接続する語句の働きについて理解する。</li> </ul> <p>○ 接続の意味関係による分類を理解する。</p> <p>○ 「読むことに生かす（接続する語句に着目して読む）」(p. 79)を確認する。</p> <p>○ 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「例文」(p. 77)を使って確認する。</li> <li>・ 思いっただけ、「こそあど言葉」を挙げさせる。</li> <li>・ どのような観点で分類できるかを話し合わせる。</li> <li>・ 指示する内容を、意味内容と距離の違いによって体系的に整理できることを理解させる。</li> </ul> <p>【評】現場指示の指示する語句について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>【評】文脈指示の指示する語句について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習問題を通じて、働きや意味関係に対する理解が深まるようにする。</li> </ul> <p>【評】接続する語句について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることに気付かせる。</li> <li>・ 指示する語句と接続する語句に着目することで、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることを理解させる。</li> </ul> <p>【評】「指示する語句」や「接続する語句」を使う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

## 【 備 考 】

詩には日常的な言葉でありながらも、普段とは少し違う言葉や表現が見られる。そうした詩の言葉の豊かな表現に触れ、ものの見方や感じ方を広げさせたい。

また、主体的に表現できる力を育てるためには語彙力や表現力を身に付ける必要がある。観点の分析、語彙の想起、表現の精緻化といった段階を踏んだ指導が必要である。

言葉には人々を動かし、人々をつなげる力がある。自分の考えや思いを適切に表現できるようになれば、多くの人のつながりができる。そのような言葉の力への気づきを育むことも大事にしたい。